京都大学新聞
学生団体 京都大学新聞社
京都市左京区吉田 京都大学構内
京都⑦8111（内線142甲）
振替・京都3909
1部（10円）

お知らせ
冬休みのため12月27日号と1月3日号は休刊します。1月10日号から平常通り発行します。（編集部）

深まる学生運動の断層
京大1965年
主動権の流動を契機に

選挙で主流派優勢保つ

一月 ▽十三日厚生問題対策協議会の公式第一回会議開かれ、七十周年事業などに関して学校側と学生の意志疎通をはかった▽十五日教養正副委員長選と同学会代議員選の結果が判明主流派の圧勝に終った▽十六日同学会代議員会で同学会費の値上げが決定された▽二十二日山岡学生部長が宇治寮の閉鎖を発表、二十五日三寮連（宇治・西・吉田）闘争委員会は学校側に抗議したがものわかれに終った▽二十六日生協理事会で生協食類の値上げを決定。▽後期試験始まる。

二月 ▽一日入学願書受付はじまる▽十日願書受付締切り。競争率はほぼ平年並みだった▽十三日生協総代会が持たれ、水光費不払い闘争の提案がされたが議事運営が混乱し、審議未了で終った▽十六日学長の諮問機関の大学制度審議会は学長選挙権を拡大する方針を答申した。最終決定は学長から評議会に提案、評議会の承認によりなされる▽十七日椎名外相の日韓妥結のための訪韓阻止に、府学連統一行動が行なわれ、立命大から円山までデモを行なった。

東洋文献センター新設

三月 ▽三日から入試がはじまる。発表は十七日から二十日まで行なわれ二千三百八人が合格した。今年の入試では現役の進出がめだった▽二十日全国学館問題連絡協議会が東京お茶の水大で結成され、学館問題での情報交換を行なうが、京大もこれに参加した。▽二十四日卒業式が行なわれ千八百人が卒業した▽新年度から人文科学研究所に東洋学文献センターと西アジア研究施設を新たに設けることが決定された

留年生全体の一割

四月 ▽一日三十九年度留年者が発表され全体の八％に当たる百九十人が留年した▽十二日新入生の入学式が行なわれ、奥田学長は「使命感を持つ人になれ」とあいさつした▽十七日新入生歓迎会の開会式が行なわれ、引き続き十日間にわたって講演会などが持たれた▽二十八日府学連統一行動第一波が行なわれ約千人が参加した。「ベトナム侵略反対」を叫んで、この日統一派も「全学連」集会を開き分裂した運動が新入生にとまどいを与えた▽二十四日学対協と大学側厚生施設整備委員会の合同会議で大学側は教養学館建設用地を学生集会所跡にするという第二原案を出したが、学対協側は新徳館尚賢館跡を主張した。二十六日には音楽関係サークル代表者会議も第二原案に反対の決議をした。

生協総代統一派が多数

五月 ▽二十日本年度第三波学生統一行動が持たれ、府学連二千人、全学連八百人が参加して日韓条約調印阻止、南ベトナム侵略反対を叫んだ。▽二十一、二十二日京大創立記念行事が行なわれ、園遊会には約四千人が集まった▽二十五日生協学部総代選挙が終り、統一派系総代が反日共系総代に五十人の差をつけた。

6・4に学生七千人

六月 ▽四日五日の両日、「未来を作る私たちの学問を」をテーマとする第十九回河上祭が催され記念講演などが行なわれた▽四日全関西学生総決起大会が持たれ、関西二十二大学から約七千人が参加、大管法闘争以来の盛り上がりを見せ「北爆反対」などのスローガンを掲げて闘った。この日京大からは教養で授業放棄を決議したクラスなどを含め約千五百人が参加した▽四日山岡学生部長は教養学館の規模が二千坪に拡大したのに伴い、これまでの学館予定地の学生集会所跡（第二原案）や学対協の主張する新徳館跡では狭くなったとして教養西門南側という第三原案を発表した▽四日法学部員増（二七〇—四五〇）の教授決定が法学部学生で構成された定員増調査委員会に報告された。法自治会はこれに反対の意を表面した。また教育学部も定員増十人を発表した▽九日「ベトナム侵略反対国民統一行動日」がもたれ、この日、京大では同学会の共闘申し込みをつけた統一派六・九実行委主催の集会に主流派も参加しようとしピケ隊ともみあうなど険悪な空気になった。その後主流派は円山での日共系の集会に参加しようとして「全学連」のピケ隊ともみ合い、数人のケガ人が出た▽九日京大寮連は学長学生部長らと会見し、①熊野寮の食堂を計画通り建設せよ②炊夫の公務員化を行え③二・一八文部省通達は大学自治の侵害であり、負担区分制は受け入れられないと申し入れたが受け入れられず、寮生は寮費不払いなどの実力闘争に入った▽十二日から同学会区代議員と教養役員の選挙が始まり、この結果教養委員長は主流派植村君、副委員長は統一派山本君と決まった。代議員は統一派が少差ではあるが多数となり同学会の主動権を握った。▽十九日、二十日の両日熊野寮の開寮祭が行なわれ来客は三百人に達した。▽二十二日「日韓基本条約」の正式調印に反対する府学連緊急統一行動が行なわれ約千人が参加した▽二十九日全国工教ストが京大、横浜国大、東北大などを中心に行なわれた。

学館敷地最終案出る

七月 ▽二日学長は工教団交で、工教生の工学部無条件編入はないとし、来年度の募集を中止し在学者の卒業まで廃止しない。卒業者は欠員補充の形で工学部編入に努力するという意向を語った▽二日四十年度前期初のC自治委員会が開かれ、議長に主流派松崎君を決定常任委員の選出を行なった。この結果統一派十人、主流派九人でC常任委のヘゲモニーは統一派が握った。また七日のC自治委員会では「全学連に正式代表を派遣しよう」という委員長提案が「全学連にオブザーバーを」というC常任委員会提案とともに可決された。その後、C常任委の不信任案が出されたが否決された▽五日厚生施設整備委員会と学生側の協議会が教養学館に関して開かれ、西山教授の建築学的検討の結果、用地を教養テニスコート西三面とする大学側第四原案と学生側主張の新徳館跡案の二つにしぼられ二つを並記して予算の概算要求を行うことになった▽十日新選出代議員による第一回同学会代議員会が持たれ委員長に統一派村上君、正副議長、中執委員の多数を統一派が握った。

70周年事業計画出る

九月 ▽十四日学長は七十周年記念事業の準備委員会（学長・学部長などで構成）の京大学術振興財団（仮称）の設立、京大会館、体育館の建設などを含む事業計画原案を発表した。これに対し学生側は学生が計画に直接参画を許されず、学生部長を通じての意見提出に留まることに強い不満を示した▽十六日本部中央館地下の中央食堂の拡張整備工事が完了し営業を開始した▽二十二日秋の第一派府学連統一行動が行なわれ京大から六十人、府学連四百人が参加して「日韓反対」を叫んで立命から円山までデモ行進を行なった▽二十五日から約二週間、前期教養試験が始まった▽二十八日法、理、経各学部大学院合格者が発表された▽二十九日厚生施設整備委と学生側の合同協議会が持たれ、新同学会の下に構成された五者（同学会、生協、体育会、文連、大学院協）による学対協は、保留の確約の上で軟式コート西三面を教養学館敷地とすることに同意した。

府学連委員長に尾崎君

十月 ▽二日三日第二十二回府学連大会が同大立命大で開かれ、委員長に京大尾崎君（社学同）副委員長に立命大立川君（フロント）が就任し「闘う府学連を形成した日韓批准阻止京都青年決起集会」が持たれ、京大からも三百人が参加、府学連など約二千人が参加した▽十七日同大で京都府学連・東京都学連主催の全国自治会代表者会議が持たれ10・29全国大学ゼネストによる日韓闘争提起などが行われた▽十日工教は、学長の確約した来年度新入生募集停止が無視されたことに関連し、工教即時廃止、工学部への無条件編入、来年度募集停止などを要求して無期限ストに入ったが、二十六日学生大会決定でストを解除した。

日韓闘争盛り上る

十一月 ▽五日反戦青年委員会に府学連千五百人が参加、十二日にも反戦委統一行動が持たれ、同日衆院本会議での抜き打ち採決に抗議して三千人がデモ、集会を行った▽九日、社共総評三者共闘、日韓批准阻止国民総決起集会が円山で開かれ、府学連千五百人「全学連」千五百人を含む一万五千人が集まった▽十九日から二十三日まで、かねて同学会を中心とする実行委員会などで進められていた第七回十一月祭が催され、実行委企画、サークル企画、学部企画などにより映画、講演、展示、模擬店などが行なわれた▽十七日京大燃料工学教室で火事があり教室百平方米が焼けた。

選挙で統一派勝利

十二月 ▽二日社共地評三者共用の「日韓粉砕全京都決起集会」が四千人を集めて開かれ、府学連四百人「全学連」四百人が参加した▽三日統一派が講成する12・3京大一万人集会実行委は吉田グラウンドで集会を持ち、三千五百人が参加した。同日生協は中央食堂を除く事業所を集会中閉鎖、従業員は集会に参加した▽一日からのC自治委員役員と同学会代議員の選挙は、C副委員長、代議員数でも統一派の勝利に終った。

教養委員長に笹隈君
後期選挙終わる
民青系大巾の進出

去る一日から続けられていた全学区同学会代議員選挙は規定数に達したため予定通り七日で、また教養正副委員長選は七日では規定数に達しなかったため、一日期間を延ばして八日十二時に打ち切られた。今回の選挙は、前期の選挙の勝利で同学会主流派となった統一派と、秋の日韓闘争を闘う過程で勢力回復をはかった主流派とがかなりの激戦を展開するものと思われたが、投票率も規定数を少し上回った程度でかなり低く、ますます一般学生の間に政治的無関心層が増大しているもようである。

教養正副委員長は統一派から立候補した笹隈哲夫君（ⅡA）が正委員長に同じく統一派の岡本浩君（ⅠJ）が副委員長に当選したが、前期にくらべて統一派の得票数が二百票余り増加千三百票を越えたことは注目される。同学会代議員選挙でも統一派の進出が目立ち、統一派立候補者二十名が全員当選し、残りの十三名を主流派が握った。この結果は前期とくらべてほとんど変動していないが、ここでも統一派のもつ組織力がものをいっているものと見られている。同学会代議員会はまた代議員の決定されていない教養学部選出の代議員選挙を待たないとはっきりしないが、統一派が同学会多数派を形成する可能性が強くなったことは否めない。また統一派が今度の選挙でスローガンの一つとしていた"第二府学連デッチ上げ"の問題が今後の京大自治会活動の中心問題として大きくクローズアップされてくるものとみられている。

選挙結果

教養部委員長

	氏名	所属	票
当選	笹隈 哲夫	（ⅡA統一派）	1328
次点	森本 忠紀	（ⅡL旧主流派）	809

教養部副委員長

	氏名	所属	票
当選	岡本 浩	（ⅠJ統一派）	1272
次点	赤松 英一	（ⅠL旧主流派）	822

全学区代議員

	氏名	クラス	票
当選	[illegible]	ⅡT	428
〃	[illegible]	ⅡJ	578
〃	[illegible]	ⅢT	405
〃	[illegible]	ⅠT	433
〃	[illegible]	ⅢP	552
〃	[illegible]	ⅡE	490
〃	[illegible]	ⅡL	520
〃	[illegible]	医本Ⅰ	453
〃	[illegible]	ⅢE	471
〃	[illegible]	ⅡL	479
〃	[illegible]	ⅢL	502
〃	[illegible]	ⅢJ	518
〃	[illegible]	ⅢS	406
	（以上旧主流派）		
〃	[illegible]	ⅠJ	615
〃	[illegible]	ⅡE	648
〃	[illegible]	ⅡE	621
〃	[illegible]	ⅡL	582
〃	[illegible]	ⅣJ	567
〃	[illegible]	ⅡA	539
〃	[illegible]	ⅡA	731
〃	[illegible]	ⅡT	706
〃	[illegible]	ⅡS	661
〃	[illegible]	ⅠS	656
〃	[illegible]	ⅢE	520
〃	[illegible]	ⅢT	494
〃	[illegible]	ⅢL	483
〃	[illegible]	ⅢE	550
〃	[illegible]	ⅢJ	484
〃	[illegible]	ⅢT	610
〃	[illegible]	ⅠM	670
〃	[illegible]	ⅢA	634
〃	[illegible]	ⅢS	574
〃	[illegible]	ⅡN	756
	（以上統一派）		
次点	幸寺 恒敏	医本Ⅲ	401
	（旧主流派）		

寮学長団交 暖房費で

十日、寮生代表は学生部長と会見し、三日の学生部長、寮生団交で物分れになった熊野寮暖房問題を話し合ったが、は、学校側が、今冬の必要石油を全部配給し、負担については今後も負担区分問題として話し合ってゆくことになった。

三日の団交では学校側は「燃料代寮生負担」を主張して物分れとなった。九日には、学校側が負担を妥協策として寮生に提案したが、寮生は「少しでも寮生が燃料代を負担することは、負担区分実施の既成事実化につながるものである」として、これを拒否したため、学校側がさらに譲歩して「必要な石油はすべて学校側が出し、その負担については、現在問題になっている負担区分の問題として今後も話し合ってゆく」という線におちついた。しかし寮生は絶対水光費学校負担を主張しており、結局この問題は寮生の要求が通ったもようである。

女子寮における風呂、炊事室建設要求が、同時に行われているが、この暖房問題は寮生に大きな力を与えるものとみられる。

12・9
五者会議学長団交
内容的進展見られず

本部大ホールで団交する学長

さる十二日十二時半から、本部大ホールで、奥田学長、山岡学生部長と、五者会議（同学会、学対協、生協、職組）など約二十人との団体交渉が二時間にわたって持たれ、七十周年記念事業などに関して話し合った。この席上で学長は、記念事業の概要とその進行状態を発表した。それによると①京大学術振興財団＝仮称＝（大学院生の奨学金、研究員の養成、研究費補助、厚生施設の充実などを目的とする）設立に関しては、現在趣意書の原案を、再度準備委員会にもとして再検討中である②京大会館、体育館などの計画は、準備委からさらに小委員会に下して具体的な原案を作製中である、などである。

これに対し、学生、職員側は、①七十周年事業そのものに関し、産学協同がますます強化されるおそれがあるが、この事実をどう考えるのか②原案作製の段階からの民主的な公開討論による、学生職員も実質的に参加させよ③記念事業にともなって、サークル活動や生協の運営に圧迫が加わらないという事を確約せよ④準備委、小委員会での進展をその都度発表してほしい—など学長、学生部長に要求した。

学長、学生部長はこれらに関し①大学の現状が確かに産学協同になっている事実は認めるし、遺憾におもうが現状では仕方がないと思う②現在は原案作製の段階であり、二万人もの大集団である京大では何らかの原案をまとめておかねば話にならない。従って学生職員側の意向は厚生施設整備委員会（同学会、学対協、生協、体育会、寮連及び学生部長各学部代表で構成）を通して学生部長を通じて準備委員会に伝えるか、原案が小委員会で更に検討される際にその担当の者に伝えればよい。小委員会で学生職員の意向がどのような方法で取り入れられるかは各小委員会にまかす③サークル活動や生協の運営に関しては、予算計画の関係で確実なことはいえない。ボックスに関しては「現在より縮少はしない」ということは確約する。できればサークルボックスの増設などの問題も七十周年の事業のうちで解決したい④随時、学生部長との会議などで発表すると回答した。

このように、大学側は七十周年記念事業の内容に関して、学生職員が直接事業内容決定に参加するパイプを厚生施設整備委員会（去る九月下旬以来、学対協の要請にもかかわらず開かれていない）と各小委員会への働きかけ（統一的な方法は保障されていない）に限るなど、学生職員側が望む民主的公開討論からは遠い態度を示し、今後の成り行きが注目される。

（註）小委員会は、各部局ごとにそれぞれ個別の問題（体育館、京大会館など）を分担して具体案をねるもの。

京大人事

昇任 工助教授 川端季雄（工助手）医助教授 小重山靖人（医講師）工教授 畠昭治郎（工学研教授）工学研教授 若林二郎（工学研助教授）工学研教授 江口弥（工学研助教授）
併任 農付属農場長 赤藤克巳（農教授）基物研教授 碓井恒丸（名大理教授）
配置換 名大理教授 碓井恒丸（基物研教授）

黒仮

冬枯れの季節である北山の連なりはすでにそのイタダキに白いものをかぶり、街路樹は冬仕度をすっかり整えわずか一枚の木の葉が余計もののようにブラさがっている。そのさむざむとしたイヤーナ気持、オーバーのエリをたててそそくさとどこかへ消えていきたいような気持、その荒廃があらゆるところに感じられる。▼「戦後二十年の日本の精神の歴史のなかでひとつの転機がきた。」（日高六郎＝展望一月号）日韓条約強行採決というひとつの"政治"をどう論評するのは、あるいは唐突かも知れない。しかし安保後の挫折のような、阻止できなかった無力感よりもむしろ存在基盤がグラグラゆれ動くような深い感動をどう表現するのを不適切とかたづけられないだろう。▼政治は人間によって行なわれる。その限りでは人為である。しかし政治はまた人為を超越する。日韓条約批准審議の際の政治（＝議会民主主義）の貧困は、戦後二十年の政治のそして思想の必然の帰結とするならば、"戦後に賭けた"ことの意味とは一体なんだったのであろうか。葬送行進曲の沈鬱な旋律の裏に、一九二〇年代の相対的安定期を綴った歴史の歯車のギスギスした不気味な唸りを聴くのは筆者だけだろうか。▼「運命の神は女神である。だからこれを支配するためには撲ったり突いたりする必要がある。」（マキァヴェリ）僕達が政治と思想との歴史的な断絶を乗りこえようとするとき、このようなオプティミズムが日本の政治に真に可能となるために「対抗の根拠を私達の精神の内部に、いわば原理の問題として強くすえる」必要性が問われるだろう。戦後二十年の真価はすでにマナイタに乗っている。そして、すでに"冬"は進行している。

41年度 入試要項決まる
工学部は社会一科目に
百人ほど定員増加

京大では、十二月十日から四十一年度京大学生募集要項と入学願書の交付が始まった。来年度の募集人員は、二千三百四人で四十年度より百人たらずふえている。今度は新課程での最初の入試であるために、入試要項に多少の変更がある。願書を受理の期間は、四十一年二月一日（火）から二月十日（水）の午後5時まで郵送の場合も、同時刻までに必着のこととなっている。入学者選抜方法は学力試験と健康診断と調査を資料とし総合して行なうことになっている。学力試験の実施期日は三月三日〜四日、五日で五日の午後健康診断がある。結核、トラコーマの他の重症者は不合格となる。また色盲、高度の色弱者、視力障害のはなはだしい者は、医薬学部では不合格となる。試験科目は次の通りである。

◎国語 現代国語、古典乙Ⅰ（配点は一〇〇点満点。）

◎数学 科目に細分せずに出題する。その範囲は次の通りとする。新教育課程による高等学校卒業者 理科系学部（理・医・薬・工・農学部）志願者に対しては新課程の数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学Ⅲとする。文科系学部（文・教育・法・経済学部）志願者に対しては、新課程の数学Ⅰ、数学ⅡBとする。①旧教育課程による高等学校卒業者で理科系学部志願者に対しては、数Ⅲまでとする。ただし、文科系学部（文・教育・法・経済学部）志願者は、問題を選択することによって、数学Ⅱまで学習の範囲でも解答できるように出題する。②新教育課程で受験する者に対しては、新教育課程卒業者に準じて、理科系学部（理・医・薬・工・農学部）志願者は、新課程の数学Ⅰ、数学ⅡB、数学Ⅲとする。文科系学部（文・教育・法・経済学部）志願者は、新課程の数学Ⅰ、数学ⅡBとする。配点は二〇〇点満点。

◎理科 物理B、化学B、生物、地学のうちから2科目選択。ただし工学部志願者は必ず物理Bと化学Bを選択。なお地学選択者には選択した他の科目の追加問題を余分に解答させる。この場合、地学を七五点他の科目を一二五点とする。（配点は二〇〇点満点。ただし、法学部は二倍にして計算する。）

◎外国語 英語B、ドイツ語、フランス語のうちから、いずれか1か国語を選択させる。配点は二〇〇点

◎社会 倫理社会と政治経済（倫理社会と政治経済とは合わせて1科目として取り扱う）日本史、世界史B、地理Bのうちから2科目を選択させる。工学部は一〇〇点満点。

なお、国語、理科、外国語、社会については、新旧両教育課程の共通する分野から出題する。数学については、Ⓐ新教育課程による高等学校卒業者は、必ず新教育課程による問題で受験すること。Ⓑ旧教育課程による問題で受験してもよい。ただし、受験する問題を新、旧両問題にまたがって任意に選択することはできない。Ⓒ大学入学資格検定合格者で、数学の科目全部を新教育課程により合格した者は、Ⓐに準ずる。それ以外の者は、Ⓑに準ずる。

〈注意事項〉
一、出願書類などの郵送を希望するときは受信場所および受信者氏名を明記し、10円（工学部の出願書類を希望する場合は20円）切手をはった標準封筒角型六（二六二㎜×三二九㎜）を同封し、志願する学部事務室教務掛に「願書請求」と朱書して申し込むこと。
二、届け出た受験科目のうち外国語は受験の際変更できない。
三、工学部志願者は、入学願書に第一および第二志望の専門学科または系学科を明記する。農学部志願者は、入学願書に、専門学科の志望順位を、8学科全部について明記すること。

大学入学資格検定の合格者はその成績証明書を調査書の代りに提出する。

なお合格者の発表の期日は学部によって異なるが三月二十日（日）までに各学部の掲示場に発表し、同時に本人に通知する。

出願手続き

◇入学願書
本学から交付する用紙に、必要事項を本人が明記すること。
◇調査書
文部省で定めた様式により、出身学校長が作成したもの。
◇入学検定料 1500円
◇健康診断書
本学から交付する用紙に、保健所国・公立の病院これらに準ずる病院、診療所の医師または出身校医が作成したもの。またその際に必ず出願前3ヵ月以内に撮影した胸部エックス線間接写真フィルム1枚を健康診断書用紙に添付してあるポリエチレンの袋に封入すること。
◇写真2枚
名刺型半身脱帽正面向きで、出願6ヵ月以内に単身で撮影したものを、入学願書付属用紙の定められたところに、のり付けすること。
◇封筒1枚
規格長型5 （84㎜×205㎜）に受信場所 および受信者氏名を明記し、50円切手をはること。（受験票送付用）
◇官製ハガキ1枚
受信場所、および受信者氏名を明記すること。（願書受理通知用）
以上の書類その他をまとめて出身学校長を通じて志願する学部に提出すること。ただし、志願者から直接、志願する学部に提出してもよい。

学部・学科別募集人員

学部	学科	募集人員
文学部		200
教育学部		50
法学部		270
経済学部		220
理学部		255
医学部		105
薬学部		80
工学部		880
	土木系学科	140
	機械系学科	120
	電気系学科	135
	金属系学科	80
	建築系学科	90
	資源工学科	35
	化学工学科	40
	原子核工学科	20
	工業化学科	50
	高分子化学科	40
	数理工学科	40
	燃料化学科	30
	航空工学科	20
	合成化学科	40
農学部		244
	農学科	30
	農業工学科	34
	林学科	25
	農林経済学科	35
	農芸化学科	40
	水産学科	25
	農林生物学科	15
	林産工学科	40
計		2304

昭和41年度京大入試科目表

教科	科目	文学部・教育学部・法学部・経済学部 出題科目数	受験科目数	理学部・医学部・薬学部・農学部 出題科目数	受験科目数	工学部 出題科目数	受験科目数
国語	現代国語／古典乙Ⅰ	●●	2	●●	2	●●	2
社会	倫理・社会／政治・経済／日本史／世界史B／地理B	○○○○	2	○○○○	2	○○○○	1
数学	数学Ⅰ／数学ⅡB／数学Ⅲ	●●	2	●●●	3	●●●	3
理科	物理B／化学B／生物／地学	○○○○	2	○○○○	2	●●○○	2
外国語	英語B／ドイツ語／フランス語	○○○	1	○○○	1	○○○	1
出題科目数／受験科目数		15	6	16	10	14	9

（黒丸は必修　白丸は選択）

合宿・宿泊・コンパ
追コン・宴会に
加茂川畔の
旅館清州
河原町今出川電停前
TEL(23)1750.8776

自然 1 中央公論社 特価170円
特別寄稿—回想の中の師と弟子— ジョリオ＝キューリーの想い出 湯浅年子
地磁気動脈……加藤愛雄
アジアのガン探検……平山雄
ミツバチのたどったみち……坂上昭一
聴覚生理学への道 勝木保次
地球科学の歴史と現状……都城秋穂
わが師わが友……台弘
小林米作と科学映画作法……神山恵三
道路網の知恵……ロゲルギスト
〈グラビア〉オットセイの生態を観察する
ノーベル物理学賞の背景 くりこみ理論の生い立ち 伊藤大介

自由 新年号 150円 自由社
六十年代後半の世界情勢 高坂正顕 公文俊平
[討論]「新しい大学」の理念 木村健康 森永和彦
先進国の悩み……船田中
日韓条約の採決を廻って……長谷部忠
日韓国会を私はこうみる……岸田純之助 武者小路公秀
人間に還れ……岡潔／時実利彦
日本語の将来……福田恒存／パッシン
詩の自覚の歴史 山本健吉
万葉の世界に詩の源流を求め近代に及ぶ格調高き精神史！
東京都港区麻布新竜土町11／振替東京72133

世界に先駆け4年の歳月を要した劃期的選集！遂に完結！
トロツキー選集
〈全12巻・13冊〉全巻9,950円
最終回配本
文学と革命
11巻のⅠ 定価650円
十月革命後の混沌と噴出する芸術諸潮流への辛辣な批判を通じ文学本質論を展開する労作
東京・文京・春日1−6 振替・東京72442 現代思潮社

弘文堂
フロンティア・ブックス
アメリカの中国観 F・グリーン著／佐々木敏一訳 ¥三三〇
ネールなきインド F・モラエス著／山口房雄訳 ¥三三〇
交通犠牲者 ¥三三〇
美空ひばり 竹中労著 ¥三三〇
全国有名書店・大学生協書籍部でお求め下さい

■ノーベル賞に輝く朝永博士の名著を座右に
朝永振一郎著
量子力学的世界像
B6新版¥三八〇

「毎日新聞」推賞／最先端の物理学が描く世界像を、数式ぬきでつづったユニークな教養書である。
「週刊朝日」推賞／本書には、名作「光子の裁判」がある。
「中央公論」推賞／量子力学の世界を学生向けに興味深く説く。
全国でベストセラー（毎日新聞調べ）

世界のわかもの WATCH 14

現実的「対話の不可能」

錯宗する十四種の国定地方語

インド

無限の富は御身のものではない、辛抱づよいうす穢い母なる土よ！
御身は御身の子らの口を斉そうとして苦労するが、糧はいたって乏しい…
永年のあいだ御身の絵具と唄とで働いているそれでも御身の王国はまだ築かれてはいない、ただその悲しい下図だけである。…（「タゴール詩集」より山室静訳）

「苦悩するインド」「インドはもだえる」「……」―インドから日本のボクらに伝えられてくる数々の作文に冠せられるこれらのコトバが、ベンガル湾や南シナ海を越えてボクらの目に達するとき、すでにフワフワと浮く軽いものに変色してしまっているのは仕方のないことなのだろうか…。「コトバ」以上の現実を眼のあたりにするときボクはあらゆる散文の可能性を否定しそうになって仕方がない。

このインドの記録の始めのタゴールの詩はボクらをわずかながら慰める。

タゴールの詩をボクに教えたのは、マサチューセッツ工科大学のインド人留学生マヘシュだった。アメリカでのボクの親友だった彼は同時に熱烈な「ジャパニーズ・ハイク」（俳句）の愛好者だった。英語と日本語からなるハイクのレコードを聞いて、果たしてその境地が理解できるか否かがマヘシュと、ボクの家族のビルとのその日の関心ごとだった。二人の顔が歓喜に燃える瞬間をボクは楽しんだ。数日たってマヘシュが言った。「セツ、ボクはついにハイクを作ったよ。聞いてくれ」…Looking for the girl, everything lost ――これもハイクだろう」「彼は今日はブルー・デーなのよ」傍でベッツィがつけ加えた。ボクはこれも俳句だと言った。ボクが彼の失恋を共に悲しむのに"季語"なぞは要らないではないか！

さて俳句のことはどうでもいいのである。インド人の彼はタゴールを英語で読んでいた。あいにくかの詩人は作品のほとんどをベンガル語でそしてほんの一部を英語で書いていたのである。あいにくと彼の地方のマラーティ語ではないのだ。人口四億のインド人が憲法で認められた十四種の言語のほか七百種余りのコトバを内包しているインドではタゴールをマラーティ語で読めないことは、およそ默殺される程度の"不便"かも知れない。文学自体一般民衆で読む者は少ない。ボクはこの作文の冒頭で散文の不可能性を考えていたのだが、もし「コトバの不可能性」を言うとしたら、その考え得る限りの「不可能性」をこの国が負っていると言っても過言ではない。今はその幾つかを考えてみよう。錯綜する言語は対話の不可能を招いているのだ。マヘシュ君はニューデリー出身の友人とイギリスのコトバでのみお話ができる。そして他のコトバをしゃべるといってもこの場合の「人々」というコトバの中に一般大衆が参加することは許されていない。英語力のある「人々」は人口の約一％、話せる「人々」でもせいぜい数％という。インドでは確かに日本と反対で英語のできるヤツほどインテリであると言えるわけで、英語でインドの大衆にふれることは所詮「英語的に」それに触れるにすぎない。

今いったことは二重の意味において、一つは、本当の意味のコトバ、の不便さにおいて。公用語として「天下御免」のはずのヒンディー語でさえこの制御を免かれない。国民文学、大衆文学だのを語るにはさらに勇気がいる。ここでいうコトバとは、日本と違って理屈ヌキ、かっこヌキのコトバである。日本へ帰ると、インテリの御仁たちが「現代において"対話"は可能か？」とか「現代の流動化する思想状況の下で真の意味の"対話"はおろか"コトバ"さえ見出し難い」とか「"コトバ"の氾濫による疎外」について、ケンケンガクガクとなっている様相に戸惑うのはボクだけではあるまい。

いまひとつは、インテリ（＝金持階級、この等式はインドではほぼ正しい）が大衆と会話をかわさないことにおいて重要である。たとえば君はインドで次のような光景に毎日出くわすだろう。自分に手が伸びる。これはインドの大衆（とあえて言おう）が君たちに金を要求しているのだ。ある女は乳のみ子を抱いたレプラ患者であり、ある男は終日天を向いている僧侶かも知れない。それで君は「大いなる同情をもって」彼らに何がしかの金品を与える。というのは彼らが同情にふさわしい理由を持っていると「推量する」に他ないからだ。

というのは彼らは英語を話す階級（つまりインテリ）ではないし、たとえ土語を話すとしても、彼らが低いカーストもしくはアンタッチャブル（不可触賤民）ならば、決してインテリには話しかけないからだ。この場合大衆とインテリの間にかわされるのは、会話ヌキのパント・マイムだ。それもただ物乞いのパント・タイム！単なる悲劇と化するのはやめにしょう。日本のインテリならさしずめこう言う。少なくともわが京大11月祭ならこうだった。「いや待てよ"大衆"とは何だ？」「自己の体験からのみ思想形成に出発する旅人だ」（晃）

インド中産階級の大学生たち。彼らはいわば＜国内派＞であり、ホープだ。ボンベイ郊外のフローラ石窟の前で。

―講演― 大衆ナショナリズムと国家のイメージ（下）

吉本隆明

自己意識の至上物天皇制追求

―最高幻想性によってではなく大衆意識への下降で―

×××そして×××（中断）その時初めてナショナリズム、ナショナルな問題が問題となってくる。そういう意味で、ナショナリズム、ナショナルな問題が思想の問題として提起され得るのであり、私はそういうところにナショナリズム、ナショナルな問題をなぜ考えざるを得ないかという本質的問題が存在すると考えるわけである。

上山春平の私のことをとりあげた論文があるがその論文によれば、私は日本の土着的なものにこだわり、そこに密着し、ウェイトを置き、思想の課題を置くというふうに誤解されている。それはそうではなく、一たび世界の下の精神的幻想性の水準にまで越えていった、つまり、ナショナルな幻想の共同性を越えていったそういう所から逆に、ナショナルな大衆の基盤、土俗者的な基盤に入っていく過程というものを私達はナショナルなものと考えるのである。（このような所は解釈の仕方が違い、理解の仕方が違うのである。）そういう問題が生じた時初めてナショナルな問題が生まれてきそれがおそらく現在の状況の方で様々な形で論議されているナショナリズムの問題とか近代化の問題とかで論じられるものなのである。また文学の分野でも再検討の気運というものが存在しているわけだけれども、根本にある問題は以上述べてきた事に要約される。

×××それで×××は何故世界の非常に先進的部分、つまりトロツキー流の世界革命論でいえば、問題が、既に世界最高の水準にある国家においては経済的あるいは意識的、思想的諸問題が最も基本的なものとなるかという、そういうようなところで問題が終らないで再び元に幻想として戻ってくるというのは、個々の国家主権のもとにある大衆の意識の核のようなものを、捉えるということが思想の課題になり得るかということが問題になってくるからである。だからそういうところでなぜそういうような観点がでてきたかといえば、ある程度体験的な思想に根ざしてくるのである。例えば、明治維新当時に英国の外交官であったアーネスト・佐藤という人の書いたものを読んでみると、英国は割合うまく日本の幕末から明治にかけての混乱の過程を捉えている。その場合どういう所が面白いかといえば、政治権力というのは幕末においては幕府に存在するがしかし、儀礼的権力や宗教的権力というものは京都に存在するらしいという、つまり政治権力と儀礼的権力存在の分離した奇妙な形をよく考えなくてはならないのではないかという洞察を持ちながら、薩摩や長州と手を結んだりするのである。フランスはそうではなく、政治権力は徳川幕府に存在するということだけで終る。この意識の相違がおそらくフランスのまずさと、英国のうまさの違いになったのではないかといえる。しかしこれは私達が体験思想として例えば戦争体験でも同じようにいえる。すなわち天皇制というやつは何とも奇妙な存在でそれ自体が実質的な政治権力のオールマイティであると考えると、そこでは解けない問題が出てきたり、或いはブルジョワ（つまりトロッキスト諸君が言っているボナパルティズム的な）観点をとるとそこでも解けない問題が出てくる。そして半封建的な言葉を使用したりして余りものをどんどん整理したりする方法がでてくるわけで、このような何か奇妙で解けない問題があるわけである。

戦後民主々義の欠陥

―思想的視点からの民主々義体験の多様性―

××××そういう××××解きにくい問題を本当の意味で解くという課題は未だに完全には行なわれてはいない。そういう問題を体験思想として取り出して見た場合例えば戦争なら戦争自体を一応受け入れながら内面的問題として民主主義、デモクラシーの思想を保持していたという二重の体験を持った戦後民主主義を考えると西欧の民主主義者の最良の部分は生命を落しても民主主義を守るという戦闘的な民主主義者として戦争を通過しているが、それに対して日本の民主主義者は内心で民主主義を考えながら現実には戦争そのものに自からも参加するという二重性しか持ち得なかったのであった。僕等は戦争は大いにやれ、あくまでやれ、徹底的にやれという方だったけれど、変なファッシズムのようなものは下らないものだと当時でも思ってはいた。しかし純粋意識として、天皇は神であるか、人であるかなどということはどうでもよいが、けれども自己救済の宗教的象徴としての天皇という観点を持っていた右翼的思想には非常に魅力があった。いいかえるならば天皇自体はどうでもよいがいつ命を失うか分らないという自己が戦争の中で、何を以て何のため何を支えに戦争をするかという、自己意識における至上物としての天皇制を提起した思想に魅かれたのでった。だが天皇ファッシズム（ナチスドイツをまねた、たとえば中野正剛のような社会ファシスト）というものにはあまり魅かれなかったわけである。そういう体験から考えても、また日本デモクラシーの体験（例えば丸山真男の体験）、戦争のくぐり方の体験というようなものを考えてもやはり、そういうものが単に民主主義という観念で世界普遍性として通過してしまうのであり、あるいはブルジョワ民主主義、或いはプロレタリア民主主義、人民民主主義という形で世界普遍性であるかのようにそれ自体が考えられる限り、その実体構造を付与することができないという問題がでてくるのだ。その実体構造が付けられないという課題は戦後私達が体験思想としてもどうしても解かなくてはいけないと考えてきたわけである。

×××××このように×××××考えて来てみると、単に世界の最高の幻想性の水準に移行するということがインターナショナリズムの問題ではなく、同時に思想の問題でもないのである。そこから逆に国家権力の下に自己意識としても国家権力の水準を越えない。或いはそれよりも低い水準でしか幻想性としてしか考えられないという大衆の意識の核に再び回帰し、把握するということが思想の課題であり、そこで、生じ、解かれねばならない問題がナショナリズムの問題といえる。戦後二十年の様々な運動、文学、芸術などが若しある意味で不毛であるとするならば、そして現在それらは全て終り、しかし終ったが故にまた始まりであるというふうに始まり自体がどこにあるのかわからず、それならば過去を検討して過去から次々に石を積み重ねるように積み重ねて現在を考えてみようという試みが盛んに行なわれている現状を鋭敏な状況感覚と考えるならば、やはりそういう問題を提起しなくてはならないといえるのであり、ここにナショナリズムの問題が存在しているのである。

×××それで×××は大衆（大衆ナショナリズム）にとって思想とは何なのかという問題が残る。そこでも通過程というものはまだ知的な上昇を遂げない存在であり、自己の生活にまつわる思想しか考えず、また国家権力がどうなっているかなどはあまり考えない。しかし税金をいくら納めるべしというような場合、即ち自分の生活または生活思想に接触してくる限りにおいてのみそういうことを考えるが、常には考えないものとすると、こういう大衆が知識的な、あるいは啓蒙的な意味で目覚め、知的な過程に上昇していくとか、また外部から世界の最高認識の水準でいえばこうであるというようなことを与えていくと大衆が知的に上昇するという考え方とかはあまり思想の問題にならない。大衆というものはだんだん知識人化していくわけだし将来、知識人と大衆との区別はあまりなくなってしまうということもあるかもしれないのだ。だからそういう所に考えるべき思想の、本質的問題はない。むしろ生活過程にまつわる事しか主要な関心事とはならないという大衆の意識自体をそのままの形で下降させ、深化させることこそが大衆にとっての思想の課題となるのである。そして深化させられた場合には知識人とは決定的に背反していくので、例えば知識人が平和は大切だといったとしても大衆は平和が大切だというふうに啓蒙されることはなくなり、平和は大切だと知識人は言った、しかし大衆自身は生活の現実でぶっかることの深化をさせていく（イメージで言えば逆方向で考えていく）という事が考えられるわけである。

変てこりんなイデオローグが大衆の所に行き戦争を煽ったり、安直な平和理念を説くということに対して大衆が見向きもしないというとき、見向きもしないということは単に無関心ということではなく、それに対応するように自己思想というものがどんどん深化されていく形としてあるのであって、このような形が出てくる時、時代の支配者の諸転換というものに大衆自体が決して動かない、動かないというものだけでなく動かないことが思想化されるという課題が生まれてくる。そういうことが大衆ナショナリズムといえるのであって、また大衆が大衆としての思想を持つということがどういうことなのかという問題の根本が出てくると思われるのである。そういうものが知識人や大衆というもの思想的課題となってくるのである。

×××私達が×××考えているナショナリズムというものはそのようなものとして存在しているし、そう考えられている。この考え方は様々なナショナリズム論議の中で異質なものとなるわけだが、どうしてもナショナリズムの問題を考えざるを得ないとすればそういうものになってくる。だからそういう問題は相当、普遍化することができる。例えば今の反対制運動というものがいずれにしろ、社会主義圏と資本主義圏の経済的、軍事的、政治的対立を固定化することにしか役だたず、また役だつばかりか、その固定化を一方の側から強化するという保守的なものにとっては、一方の側＝進歩的な側をそれぞれ固定強化するというような形しかとれない。そのようなものに対する強力なアンチテーゼはやはりそういうところから出てくるのであり、私達がナショナリズムという場合にそういうことを意味するのである。だから現在反体制という形でとられている運動の論理は、いわば二重性の論理、つまり戦争自体を内在的にはあまり謳歌したり迎合したりしなかったにもかかわらず現実的には戦争に参加し自分がある場合には殺戮者であったという二重性も踏まえた論理であるから、そういう意味でそれを理解しないと何かたぶらかされるところが出てくると思う。そのような人達には民主主義という言葉があると民主主義という言葉は万国共通に存在する言葉としてしか存在していないわけで、しかしその民主主義というものがどういうような体験を経たのか、つまり個々の国家権力の下でどのような体験を経たのかというような問題になってくると、その民主主義なるものの実体は多種多様であり、様々であったわけだし、あり得るわけなのである。そういう問題を思想の問題としてくりこむことは何もやらないし、またくりこむ方法をも持たないというのが戦後民主主義の最大の欠陥であるだろうと思うのである。そしてそれがある意味で日本革命思想の欠陥であるのだと思う。こういう所ではプロレタリアート、或いは階級といえばそれは普遍概念としてどこでも通用するというようにしてしか存在しないので、プロレタリアートや階級が国家権力の下でどういう体験を経て、どういう実体となっているかという問題がプロレタリアートや階級概念それ自身に与えられない限り有効性を持ち得ないだろうということは同様にいい得るのである。

××私は××現在相当苛立っているけれど、何か苛立ちの原因というものは少しも変わらないということなのである。（中断）プロレタリアートや階級という概念がどういう体験を経てきたか、或いはデモクラシーという概念がどういう体験を経てきたかというような問題を考察することが思想の問題となり、私が考えている意味のナショナリズムの問題の基本となってくるのである。これは様々な分野にわたって様々な問題について具体的に研究することもできると思うが、私がいいたいこと、またいい得ればと思うことは基本的には以上記したことがらに尽きると思う。（評論家）

訂正

先週号吉本隆明氏講演録の記事中、以下のような誤植、脱字がありましたので次のように訂正いたします。

▼一段二行　花田晴輝→花田清輝
▼三段三七行　つまり感性的自然を信じないという徹底した→つまり感性的自然を信じ、あとは信じないという徹底した。
▼三段終行　西独→西欧
▼四段一行　日本文化圏→日本は文化圏
▼四段二八行　外来のものとの府立→外来のものとの対立
▼六段二行　しかないと→しないと
▼六段五行　日本前期の社会生活→日本の現実の社会生活
▼六段一五行　丸山眞男→丸山真男
▼八段一六行　序々に→徐々に
▼九段二二行　世界史→世界的
▼九段二四行　連入→人達
▼十段三二行　様々は落者→様々な落差

なお先週号に掲載した書評に、編集部の手違いから出版社名など脱落しましたので、付加するとともにおわびします。

「アリランの歌」→みすず書房刊・B6判・二八〇頁・六五〇円
「自由主義」→筑摩書房刊・B5判・三二〇頁・四五〇円
「美術と映画」→紀伊國屋書店刊・A5判・一七〇頁・八〇〇円
（編集部）

"ローマは一日にしてならず、この味、この評判も……。
さえら食堂
四条店　河・四条下ル
三条店　河・三条上ル
桃山店　伏見・大手筋

第7回 懸賞小説募集

本社では第七回懸賞小説募集を行います。既成の観念にとらわれず、新しい視角からこの錯乱の現代にアプローチする新人を登場させるというのがこの企画の意図です。今は「文学」氾濫の時代であり、また沈滞の時代でもあります。それだけに一層、新鮮な文学が要求されています。

過及六回の募集には、全国大学諸兄姉から多数のご応募をいただきましたが、前回は入選作なしという低調さでした。今回は昨年同様、井上光晴、野間宏両氏に選者をお願いすることになりました。諸兄姉の力作を期待します。

選者　井上光晴氏　野間宏氏

井上氏

野間氏

応募規定

◇応募資格　大学、大学院に在学中のもの（学外内を問わず）未発表のものに限る
◇枚　　数　500字詰原稿用紙30枚以内
◇締 切 日　昭和41年3月末日
◇発　　表　昭和41年5月下旬　本紙上
◇賞　　金　入選（一篇）2万円　佳作　5千円
◇送 り 先　京都市左京区吉田京大構内、京都大学新聞社小説係、（原稿には、住所、氏名、大学名、学部、学年、年令を明記のこと）

なお、版権は本社に属します。原稿はお返ししません。

京都大学新聞社

岩波書店　東京神田一ツ橋／振替東京26240

学習に最適な使い易い六法！
岩波基本六法　41年版
末川博総編集
B6判・上製函入・一二三四頁／五五〇円

◆学習と実務に必要な法令を網羅＝二七一件
◆各国の法令を比較参照できる
◆旧法令も比較参照できる
◆圧倒的に充実した国際法部門
◆完備した参照条文・総合事項索引
◆付録「法の成立と運営」「手数料等一覧」等

世界
創刊20周年記念　新年特大号　220円　岩波書店

日本外交の思想的転換　坂本義和
日本近代と東アジア ―いかにしてアジア唯一の帝国主義は成立したか―　遠山茂樹
核兵器と日本 いま何をなすべきか　豊田利幸
アジア情勢と日本の進路〈座談会〉　岡崎嘉平太　都留重人　森恭三　小幡操
世界の潮　一九六六年の展望
日本の潮　疑惑を深めた日韓審議
条約と国会―日韓強行採決をめぐって　田畑茂二郎
〈日録〉批准国会の内外―国会記者席から②　三宅喜恵介
戦後民主主義の危機と知識人の責任　石田雄　日高六郎　福田歓一　藤田省三
「世界」二十年　編集部X君との対話……大内兵衛
「世界」創刊のころ……座談会　久野収　城戸又一　桑原武夫　中野好夫　吉野源三郎
創刊まで「世界」編集二十年(1)……吉野源三郎
《年表》戦後二十年―思想の歩み……編 城塚登
カラーグラビア　VAYA CON DIOS　奈良原一高
思夢と惕夢―日本文学のために　吉川幸次郎
創作
鈴蘭　どこかのバスの停留所にも（三百枚）　野上弥生子
至福千年(XII)　石川淳
わだつみ〈新連載〉　井上靖